

be evening

時が築いた天空の庭園

天下逸品

TENKA IPPIN

HERE

北アルプス・雲ノ平

富山市



ハイマツや火山岩が点在する雲ノ平のギリシャ庭園。池の周りに高山植物が咲く。奥は水晶岳

標高2500〜2700mの草原を風が渡る。チンゲルマの白の花弁が震え、池の水が揺れる。

熱帯の東京から2日かけ、

北アルプス最奥の黒部川源流地帯にある日本一高い溶岩台地、雲ノ平にやってきた。最高気温20度。立山、薬師、黒部五郎、槍、水晶……。日本百名山に名を連ねる秀峰を一望できる。その雄々しさ、険しさとは対照的に、この地に点在する七つの庭園は登山者にやすらぎを与えてくれる。

知られざる自然の名園を広く世に知らしめたのは、山小屋「雲ノ平山荘」を経営する伊藤正一さん(90)だ。1948(昭和23)年に初めて雲ノ平

に足を踏み入れた。一帯をなわばりにする猟師たちもクマやイワナが生息する谷に魅力を感じ、ほとんど入っていなかった。

一目で魅せられた。空の青が映える池、流れるような枝ぶりの緑のハイマツ、黒い火山岩など自然の組み合わせが一つの世界を造っていた。足を延ばすと、数百メートルの間隔で同様の庭園に出合った。ロックガーデン風の湿原はスイス庭園、トウヒなどの高木が目立つのはアラスカ庭園というように、それぞれの特徴に合わせて名づけていった。

「まさに庭園の原点。自然の力に驚かされた」。東京農大助教の下嶋聖さん(35)は造

園学は、人の手による庭園の3要素である植物、石、池がバランスよく配置された自然の造形美を称賛する。

山岳写真家三宅修さん(81)

も雲ノ平にほれ込んだ一人だ。5年前に長男の写真家三宅さん(49)と開いた親子展で、雲ノ平の全景を撮った1枚が評判を呼んだ。台地に広がるたくさんの池が夕日にきらめく。「心が溶け込む光景を捉えてくれる」。父の写真を意識して三宅さんはレンズを向ける。

自然へのまなざしが、父から子へと受け継がれる。

半世紀前に造られた登山道は利用者が増え、木道も整備されたが、一部で土が露出す

る。現在、雲ノ平山荘を切り盛りする伊藤さんの次男二郎さん(32)は6年前から東京農大の下嶋さんと造園技法を生かした先駆的な植生回復に取り組む。麻やヤシのネットなどを荒れ地に敷き、土の流出を防ぎ種を根付かせる。

「父が見た原野の風景を道標に、自然への関心も高まるよう希望を持いたい」と二郎さん。黒土からはコケが生えるなど、成果が現れ出した。

アクセス 雲ノ平へはJR富山駅からバスで2時間、登山口の折立で下車。そこから山小屋泊まりを挟み徒歩10〜12時間。

文・平出義明
写真・畑川剛毅



ハイマツから国の特別天然記念物ライチョウが姿を見せた

雲ノ平の名は、谷からわいた雲が台地を平に覆うことから付いたという説がある。東京ドーム5・3個分の25万平方メートルの台地に、それぞれ1700〜4万平方メートルの日本、奥日本、アルプス、スイス、奥スイス、ギリシャ、アラスカの7庭園がある。

らの冷たい季節風にぶつかり大量の雪を降らせます。立っているのが難しいほどのジェット気流も吹きます。この厳しい環境に生息する高山植物は、氷河期にツンドラ地帯から南下したものです。最後の氷河期の1万〜2万年前から、温暖化とともに高山に生息域を移しました。雲ノ平の庭園は、太古からの長大な時間がつくった自然の造形美なのです。

東京学芸大学特任教授

小泉 武栄さん(65)

溶岩台地の造形美

雲ノ平は10万〜15万年前の噴火でできた溶岩台地です。7300年前に千島離れた薩摩半島の南50kmの海中にある鬼界カルデラの巨大噴火で降った火山灰が風化して粘土層となり、湿原の庭園をつくりました。

冬の北アルプスは世界一の多雪・強風地帯です。対馬海流の暖かい蒸気がシベリアか

プレゼント 山岳画家の故・古市幸利が描いた雲ノ平山荘オリジナル手ぬぐいを10人に。はがきに住所・氏名・年齢・電話番号を記し、〒530・8062 日本郵便大阪北郵便局私書箱526号 朝日新聞「天下逸品」係へ。12日必着。